

特別対談

谷口ジロー × 竹内 功

郷土のために 漫画ができること

昨年11月11日(日)、鳥取市出身の世界的漫画家であり、本市の漫画イベントにゲスト参加のため帰郷された谷口ジローさんと、竹内市長が、本市の漫画文化の将来を見据えながら、それぞれの思いを語り合いました。

問い合わせ先 本庁舎文化芸術推進課 ☎ 0857-20-3226





対談場所：さじアストロパーク

作品の世界的評価

竹内 昨年、フランス文化勲章シュヴァリエを受章されました。鳥取市出身である先生のご活躍は、我々の誇りです。作品が海外から高い評価を得ていることについて、どのようにお考えですか。

谷口 想像しなかったことなので、夢のようで信じられない気持ちです。

海外の読者は、普段漫画を読まない人でも私の漫画を読んでいると聞いています。特にヨーロッパの人には読みやすいのかと思います。日本の家族、食の話も描いているからでしょうか。

竹内 どんな作品が特に評価されているのでしょうか。

谷口 一番は『遙かな町へ』、その次に『父の暦』です。『遙かな町へ』は映画や舞台化されていると



『遙かな町へ』(フランス版)の映画ポスター

ころが理由だと思えます。

『遙かな町へ』日本初上映

竹内 日本より前にフランスで『遙かな町へ』が映画化され、今回、本市の取り組みで、日本語字幕をつけて鳥取で日本初公開されました。『遙かな町へ』が映画化され、最も海外で読まれている点はどうお感じですか。

谷口 『遙かな町へ』は、『父の暦』と違ってファンタジーの要素があって、物語にドラマという起伏がある点が多く読まれている理由かも知れません。映画化した

▶ シュヴァリエとは…

1957年に創設された、フランス共和国文化省より与えられる勲章。芸術や文学の分野において功績を上げた人物や、フランス文化に貢献した人物が叙勲の対象となる。等級はシュヴァリエ(騎士)、オフィシエ(将校)、コマンドゥール(騎士団長)の3段階。過去に、漫画家では大友克洋氏、鳥取出身者では故・植田正治氏が叙勲している。

